（第３種郵便物認可）　埼玉新

別所沼畔で野外展示

ヒアシンスハウス周辺　同時に「夢まつり」も

南区

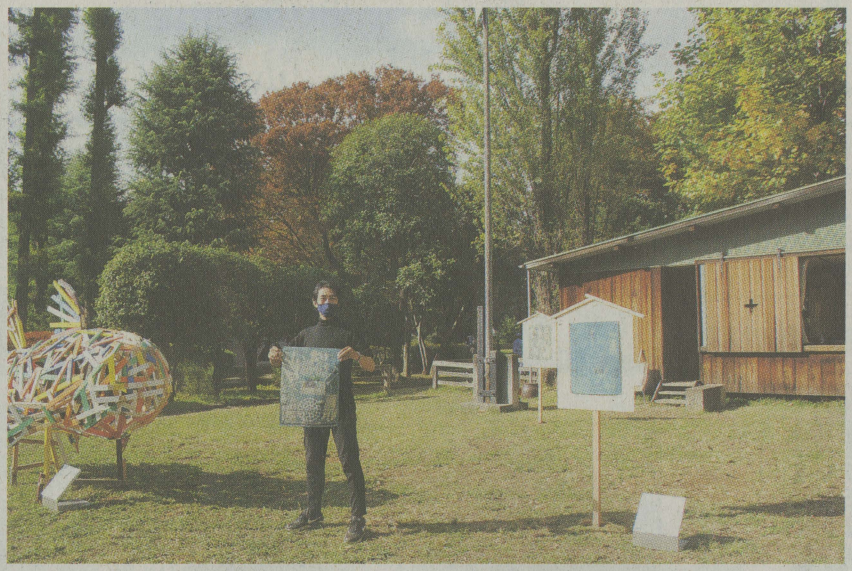
詩人・建築家の立原道造（1914～39年）が昭和初期、さいたま市南区の別所沼の畔に建てようとした週末住宅を再現した「ヒアシンスハウス」が建てられている同所の別所沼公園で、「第17回ヒアシンスハウス夢まつり」「ヒアシンスハウスアートコロニー展『記憶のありか』」が、７日まで開かれている。期間中は、ヒアシンスハウス周辺を会場に野外展示、講演などが行われる。

（佐藤達哉）

別所沼の畔には画家などの芸術家が住み「文化村」を形成していた。交流のあった画家・須田剋太、詩人・神保光太郎などが住んでいたことから、週末に通う住宅「ヒアシンスハウス」の建築を構想したという。立原が24歳で亡くなり実現しなかった。

同市の建築家、文芸家、美術家などが立原の構想を引き継ぎ、募金活動を行い「ヒアシンスハウス」を2004年実現した。現在は、ヒアシンスハウスの会（北原立木代表）が管理・運営している。

立原は「ヒアシンスハウス」を、芸術家の集まるコロニー構想も持っていたという。アートコロニー展は立原の構想を受けて、アート作品の野外展示やワークショップを行い、美術家同士や公園を訪れた人と意見交換する。県内の美術家などが集まりアート活動をしている「埼玉ミューズフォーラム」が主催する。



ヒアシンスハウス周辺の野外展示の作品と作品を持つ浅見俊哉さん＝さいたま市南区別所の別所沼公園

彫刻家・埼玉大学准教授の石上城行さんの大作「記憶の容　生きていた舟」と美術家・浅見俊哉さんの「青写真の瓦版－2021」を展示している。浅見さんは古新聞の上に、さまざまな物を置き、日光を利用して焼く青写真の作品を展示。今回はマスクなどを焼きつけ、コロナウイルス下の社会を表現している。

7日に舞踊家藤井彩加さんのパフォーマンス、美術ワークショップなどが行われる。

浅見さんは「コロナウイルスの感染拡大で、美術館は閉鎖され、アート作品を発表する場として野外展示が注目されている。公園を訪れた人や美術家の声をお聞きしたい」と話している。

「夢まつり」は今年で17回目で「ヒアシンスハウス」の魅力を発信している。6日午後1時15分から「別所沼公園のヒアシンスハウス考」と題して長岡造形大学の津村泰範さんが講演。6日午後3時20分から映像作品「ヒアシンスハウス生まれる夢の館の誕生」を上映する。埼玉大学合唱部の合唱も行われる。

問い合わせは、アート展・浅見さん（☎090・9318・7780）。夢まつり・北原代表（☎048・863・4474）。